

「ラドほたるII改」の秘密

▲水中のラドほたるを操作しています。光るT字が目印です。私たちも操作を体験させてもらいました。

高い放射線でも壊れにくい
T字型の光で水中姿勢保つ
六つのスクリーン水中自在



水中ロボット「ラドほたるII改」の名前は、「放射線（RADIATION）下でも希望の光を放つロボット」から付けられた。

小型半自律、放射線にも耐えるロボットを目指し開発しています。廃炉現場での使用を想定しています。ラドほたるは、垂直方向三つ、水平方向三つの計六つのスクリーンをコントローラーで動かします。目を

難しかった浮力設定

水中ロボットの難しさは、水の中で一定の位置で姿勢を保つことです。浮きも沈みもせずその場でとどまる状態のことを「中性浮力」と言います。ちよつとした重さのバランスの違いで、浮いたり沈んだりします。渡辺さんは、何回も失敗したそうです。ネジの数や長さで浮力を調整しているのが自然に浮かび上がり、回収も楽です。もう一つ難しいのは、ロボットの中に水が入っ

（福田翔琉、菅沼凜）

私たちが作りました。

ロボテス取材の4人

ジャーナリスト体験！

遊佐和貴（須賀川・西袋中2年）



僕は普段よく新聞を読んでいたのですが、このイベントがあるのを知り、ジャーナリストはどのような取材し、新聞にまとめているのか気になって参加したいと思いました。実際に行ってみて、疑問に思ったことを積極的に質問して取材し、メモを整理してそれを新聞にまとめる作業が大変でしたが、みんなと協力できて良かったです。

震災を考え続けたい

菅沼凜（猪苗代・長瀬小5年）

3月11日宮城県沖の巨大地震が東日本をおそいました。それが東日本大震災です。その時私は、



1歳で、東日本大震災のことは、あまり覚えていません。ですが、このジャーナリストスクールは震災についてたくさん考えられた貴重な時間だと思います。これから私も震災について考えていきたいと思っています。

多くの人に伝えたい

作山心彩（いわき・平一小6年）

東日本大震災が起きた時、私は小さくて何も覚えていませんでした。なので、このジャーナリス



トスクールに参加し少しでも震災の事を知りたいと思いました。また、新聞を通して震災からの復興をより多くの人に伝えたいと思いました。実際に新聞を作ると、少し難しかったです。出来上がった時、達成感を感じられました。

楽しかった新聞作り

福田翔琉（いわき・草野小5年）

僕は、ロボットテストフィールドに行つて、印象に残っていることは、タカワ精密の渡邊さん



ちが作った水中ロボット（ラドほたる）を実際に動かせたことです。自分の思ったとおりに動いてくれて嬉しかったです。新聞作りで印象に残っていることは、書いた記事や撮った写真を新聞にまとめたことです。みんなと協力して出来ました。

▲背景は巨大なプール。深さは7m。様々な企業や研究機関が実験のために使用しています。水上・水中ロボットの施設は工場のようなです。

